

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

- 1 自分の意見を堂々と言える能力の育成
- 2 得意技を身に付けさせる
- 3 進路指導の強化

2 中期的目標

1 学力を向上させる

- (1) 学習到達度の目標を具体的に持たせる。
- (2) 学校と家庭で過ごす時間のバランスを考えさせ、放課後や家庭等での学習の質と量を向上させる。
- (3) 授業を少人数展開や習熟度別に適宜行うことにより、学習理解を深化させる。
- (4) 1・2年次の学習内容の定着を図り、3年次の大学入試に向けた学習を効果的に進めさせる。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用させる。
- (6) 1人1台端末を利活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図り、教員の授業力を向上させる。
※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答を令和7年度まで毎年90%以上を維持する。(R2:90%, R3:91%, R4:88%)
※12月の生徒による授業評価で、令和7年度まで毎年、3ポイント以上の教員を80%以上、全教員の授業アンケート総評の平均を3.2以上、それぞれ維持する。(R2:90%, R3:100%, R4:94%) (R2:3.33, R3:3.41, R4:3.37)

2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) 探究に関する授業「IM」やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。
- (2) 講演会や研修会等を通して、主体的に学び、意見を積極的に述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。
※授業「IM」に対する生徒による授業アンケート3.2ポイント以上を令和7年度まで毎年、維持する。(R2:3.47, R3:3.47, R4:3.36)
※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見80%以上を令和7年度まで毎年、維持する。(R2:未実施, R3:95%, R4:93%)

3 得意技を身に付けさせる

- (1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する。
- (2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。
- (3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する。

4 進路指導を強化する

- (1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う。
- (3) 入学時から大学入試等の情報や教育産業の進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。
※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を、令和7年度まで毎年80%以上を維持する。(R2:87%, R3:87%, R4:87%)
※令和7年度にめざす大学合格者数（現役生8クラスの延数）

	京阪神大、早慶上理大等	他の国公立大	関関同立、GMARCH等	産近甲龍等	外国の大学
	10	90	200	300	5
R2	7	52	165	312	0
R3	3	68	210	435	0
R4	1	56	187	289	4

R2～4は9クラス

5 安全安心で魅力ある学校をつくる

- (1) 支援チームを立ち上げ、個別のケースに対応した指導を行う。
- (2) SC及びSSWと連携を密にし、支援を必要とする生徒・保護者への教育相談を行う。
※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に対応している）に対する生徒・保護者の肯定的回答を令和7年度まで毎年80%以上を維持する。(R2:89%, R3:92%, R4:93%)
- (3) 人権教育推進の観点を踏まえ、学校としての方針を定め、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (4) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。
- (5) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。

6 校務の効率化と働き方改革を推進する

- (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
※「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき10項目」の導入を速やかに開始し、令和7年度には10項目の完全実施をめざす。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
※時間外勤務月80時間以上の教職員を削減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「家庭学習によく取り組んでいる(66%)」「得意技を身に付けることを意識している(74%)」という生徒に対する設問においては、数値が上昇してきている。一方、保護者に対する同じ設問の回答結果は高くない。また、本校の学校経営計画上の課題、特に「生徒の学習時間の確保」は達成途上である。</p> <p>【他の教育活動】</p> <p>・「本校に入学してよかった(89%)」「授業以外の学習機会がある(90%)」「教員は親身になって相談ののってくれる(89%)」「進路相談が行われている(90%)」という設問に対する生徒の満足度がそれぞれ高いことから、生徒の日々の充実感、教員との良好な関係は今後とも維持していきたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・1人1台端末を活用した授業を行っているという回答した教職員は45%と上昇したが、さらに、授業や校務における利活用を推進し、校務運営の効率化を図る必要がある。</p>	<p>第1回（6月10日）</p> <p>① 土曜授業（グローバル科のみ対象）で生じるグローバル科と普通科との授業時間数の差だけでなく、他の教育活動においても両科の特色を明確にすべき。</p> <p>② グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーにおいても差異を具体的に示しても良いのでは。</p> <p>第2回（8月25日）</p> <p>③ 入学時の学力を維持して、進路選択できるようにすべき。</p> <p>④ イングリッシュ・キャンプの参加対象生徒をグローバル科全員対象の行事にするか、あるいは普通科も含めた全体行事とするか、明確にすべき。</p> <p>第3回（1月26日）</p> <p>⑤ 教職員が学年、分掌、教科などそれぞれのチーム力を高めて、さらにバランスよく生徒に対応してほしい。</p> <p>⑥ 生徒のICT活用を広げていくために、教員の生徒に対するコーチング力を高めていくべき。</p> <p>⑦ 個別最適化の学びをシステム化していくよう取組みを推進すべき。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 授業での学習を定着させる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) 1人1台端末の活用及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進める</p>	<p>(1) 各教科の学習到達度を年度当初に明確にし、家庭での学習時間のめやすを示す。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②自己のスケジュールを管理させる。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 1・2学年では、国数英に重点を置いた教育課程を編成する。2学年では、数学を進路別、英語を習熟度別に編成し、学習効果を高める。</p> <p>(4) 授業と予習・復習、小テスト、宿題などの授業を補完する課題を有機的に連動させる。</p> <p>(5) ①1・2年グローバル科には土曜授業を隔週で実施する。 ②1・2年普通科には土曜授業の時間帯に自宅等での学習を進めさせる。 ③3年生には希望者講習を積極的に実施する。</p> <p>(6) ①1人1台端末を活用した授業を展開する。さらに、家庭学習時間も増加させる。 ②教員の相互授業見学や観点別評価の円滑な実施を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、教科指導力を向上させる。</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年: 国 54 以上/数 52 以上/英 56 以上 2年: 国 54 以上/数 52 以上/英 56 以上 普通科 1年: 国 53 以上/数 51 以上/英 52 以上 2年: 国 53 以上/数 51 以上/英 52 以上</p> <p>グローバル科 1年: 国 50.7/数 51.1/英 52.2 2年: 国 52.8/数 48.0/英 49.3 普通科 1年: 国 47.2/数 47.9/英 46.1 2年: 国 45.9/数 45.9/英 44.0</p> <p>(2) 週当りの授業外学習時間校内平均(時間)、昨年度を上回る。</p> <p><1年>学年平均 8.9 グローバル科 : 9.4 普通科 : 8.8</p> <p><2年>学年平均 10.8 グローバル科: 文 12.4/理 8.8 普通科 : 文 10.9/理 10.7</p> <p>(6) ①生徒の1人1台端末の活用率を50%以上にする [34%] ②授業アンケート(2回目)の「授業展開」3.3以上を維持する [3.46] ③全教員の授業アンケート総評の平均 3.2以上を維持する [3.37]</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年: 国 53.3/数 53.6/英 58.0 2年: 国 53.5/数 54.1/英 53.9 (○)</p> <p>普通科 1年: 国 51.1/数 51.2/英 51.1 2年: 国 51.0/数 49.4/英 46.5 (△)</p> <p>・グローバル科は、1・2年の国語が指標に僅かに届かなかったが、3教科を合わせると概ね期待通りの値となった。一方、普通科は期待値には届かなかった。これを受けて、1・2年生希望者に「校内予備校」(各学年、数学と英語各90分×5コマ)を3月に実施した。</p> <p>(2) 週当りの授業外学習時間校内平均時間 <1年>学年平均 8.5 グローバル科: 10.9 普通科 : 8.7 <2年>学年平均 7.5 グローバル科: 8.8 普通科 : 7.1 (△)</p> <p>・1年生後半から2年生前半にかけて授業外学習時間が減少した。今後は、学習支援クラウドサービス等を活用し、生徒自身が学習時間を管理できるよう指導したい。</p> <p>(6) ①生徒の1人1台端末活用率は44.7%と昨年度より上がった。(△) ・しかし、まだ十分な利活用がされていない。来年度はGood practiceを校内で公開するなど、さらに推進する。 ②授業アンケート(2回目)の「授業展開」は3.47であった。(○) ③全教員の授業アンケート総評の平均は3.39であった。(○) ・授業アンケート結果は概ね期待通りの値となった。引き続き、分かる授業をめざしていきたい。</p>
2 思考力、判断力及び表現力を育成する態度を醸成する	<p>(1) 論理的・批判的思考力とともに、論理的な文章を書いたり発表したりする表現力を育成する</p> <p>(2) 主体的に学び、積極的に意見を述べる態度を育成する</p> <p>(3) 多様性を享受し、他国の人々と協働する態度を育成する</p>	<p>(1) ①探究に関する授業やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。 ②論理的な組立てによる小論文作成力を向上させるとともに、プレゼンテーション力を養う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘し講演会等を実施する。</p> <p>(3) ①地域の学校支援 NPO と連携した海外研修のみならず、他国の人々と協働する修学旅行等を実施する。 ②国内外での研修やオンライン交流等を通してグローバルマインドを涵養する。</p>	<p>(1) ①② 授業「IM」に対する授業アンケート 3.2以上を維持する [1年 3.39, 2年 3.44]</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する [92.7%]</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する [修学旅行 99%] ②海外研修等への参加者数 40 名以上(修学旅行を除く)を維持する。 [48名]</p>	<p>(1) ①② 授業「IM」に対する評価は 3.39 [1年 3.38, 2年 3.39]であった。(○) ・来年度は新カリキュラムのもと、3年生の「IM」を完成させたい。</p> <p>(2) 肯定的な回答は 90.3%であった。(○)</p> <p>(3) ①肯定的な回答 98%であった。(○) ・来年度から、台湾への修学旅行を復活・継続し、台湾の高校生・大学生との交流事業を行っていく。 ②海外研修等への参加者数は 77 名 [豪研修 24 名、セブ島研修 2 名、イングリッシュ・キャンプ 46 名、歴史街道事業 5 名]であった。(◎) ・今後とも、自校で行う海外語学研修のほかに、LETS 校合同で人材育成型の海外研修を計画したい。</p>

府立和泉高等学校

<p>3 得意技を身に付けさせる</p>	<p>(1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する</p> <p>(2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる</p> <p>(3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する</p>	<p>(1) ①グローバル科の英語力をCEFR(*) B1-B2に引き上げる。 (*外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) ②NETを活用し、英会話講座やイングリッシュ・キャンプ等を通して、生徒の「話す」「聞く」力を向上させる。 ③英語の外部試験の受験を奨励する。 ④グローバル科のディベート授業を通して、論理的に英語で表現する力を養う。</p> <p>(2) 英語以外の教科の学習発表や課外活動等のコンテスト等への参加を奨励する。</p> <p>(3) 大学の講義を受講させたり共同研究などを行ったりする。</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年:960点以上10名/832点以上40名 704点以上60名/640点以上80名 2年:1088点以上5名/960点以上20名 832点以上60名/704点以上80名 (1年 basic 1080満点、2年 advanced 1280満点) 1年:960点以上1名/832点以上54名 704点以上162名/640点以上74名 2年G:1088点以上1名/960点以上8名 832点以上35名/704点以上27名 2年S:960点以上6名/832点以上40名 704点以上116名/640点以上46名 (1年生全体と2年生S科はbasic、2年生G科はadvancedを受験)</p> <p>②参加者数 30名以上 [30名]</p> <p>③英検2級レベル以上 40名以上 [35名]</p> <p>④ディベート指導研修1回以上 [新規]</p> <p>(2) 課外活動等における府大会等レベルでの入賞数 3件以上 [5件]</p> <p>(3) 実施予定の大学交流等 3件以上 [2件]</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年:960点以上11名/832点以上58名 704点以上183名/640点以上61名 2年:1088点以上2名/960点以上24名 832点以上96名/704点以上149名 (1年 basic 1080満点、2年 advanced 1280満点)</p> <p>②参加者数 46名 (◎)</p> <p>③英検2級レベル以上 62名 (◎)</p> <p>④ディベート指導研修 3回 (◎) ・英語力は概ね期待値に達している。今後はグローバル科のディベート授業をさらに推進するとともに、府立高校間のディベート大会の開催等を通して、論理的に英語で表現する力を育成したい。また、イングリッシュ・キャンプへの参加や外部試験の受験等をさらに奨励したい。</p> <p>(2) 課外活動等における府大会等レベルでの入賞数 7件 (◎) ・男子バレーボール部 近畿大会出場 ・ " 公立大会2位 ・女子バレーボール部 " 5位 ・男子ハンドボール部 府ベスト8 ・山岳部(女子) 秋季登山大会 優勝 ・吹奏楽部 府中央大会 銅賞 ・ダンス部 府 優秀賞</p> <p>(3) 実施した大学交流等 1件 (△)</p>
<p>4 進路指導を強化する</p>	<p>(1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する</p> <p>(2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う</p> <p>(3) 大学入試等の情報や教育産業の進路情報を活用し、進路選択を支援する</p>	<p>(1) ①生徒・保護者対象の教育産業等による進路説明会を実施する。 ②大学等に在籍する卒業生や社会人を招聘し、大学での学びや自身の将来の職業等について考えさせる機会を通して、生徒の進路実現に対する動機づけを行う。</p> <p>(2) 教育産業による模擬試験の結果を個人面談や保護者懇談にフィードバックし、生徒の学習計画に役立てさせる。特に、2年次後半に理数系科目の学習継続を諦めさせないよう指導する。</p> <p>(3) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供する。 ②1年次から大学のオープンキャンパス等へ参加させる。 ③外国の大学との連携協定等を活かしながら、外国での大学進学を希望する生徒・保護者に情報提供や進学のための指導等を行う。</p>	<p>(1) ・2023年度大学共通テストの結果 偏差値平均52以上の科目を10科目以上 (10人未満の科目は除く) [共通テスト17科目中、偏差値52以上11科目]</p> <p>・2023年度入試における大学現役合格数 【京阪神大、早慶上理大等】 計3以上 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大等 [1] 【他の国公立大】 計60以上 大阪公立・京工繊・大教・奈教・和大等 [56] 【関関同立、GMARCH等】 計180以上 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 [187] 【産近甲龍等】 計250以上 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 [289] 【外国の大学】 計2以上 米国、カナダ、ニュージーランド、台湾 [4]</p> <p>(2) 学校教育自己診断(進路についての面談や相談が十分に行われている)の生徒・保護者の肯定的回答80%以上を維持する [生徒89%、保護者84%]</p> <p>(3) ①進路説明会 各学年1回以上、保護者1回以上 [1年2回、2年2回、3年2回、保護者2回] ②大学生等の招聘 1回以上 [1回] ③海外大学進学指導研修、キャリア教育講座研修 各1回以上 [新規]</p>	<p>(1) ・2023年度大学共通テストの結果 偏差値平均52以上の科目(10人未満の科目は除く) 17科目中、偏差値52以上は9科目 (○)</p> <p>・大学現役合格数 (○) 【京阪神大、早慶上理大等】 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大等 4人 【他の国公立大】 大公立・京工繊・大教・奈教・和大等 58人 【関関同立、GMARCH等】 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 200人 【産近甲龍等】 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 437人 【外国の大学】 中国、台湾 2人</p> <p>(2) 学校教育自己診断(進路についての面談や相談が十分に行われている)の生徒・保護者の肯定的回答は生徒89.9%、保護者79.3%であった。(○) ・保護者に対する指標は約5ポイント下回ったが、生徒に対する指標が上回ったため、概ね期待通りの値となった。来年度は、進路に関する情報を保護者にさらに丁寧に伝えたい。</p> <p>(3) ①1年2回、2年2回、3年1回、保護者2回を実施。(○) ②大学生等の招聘を2回実施。(○) ③海外大学進学指導とキャリア教育講座研修を各1回実施。(○)</p>

府立和泉高等学校

<p>5 安全安心で魅力ある学校をつくる</p>	<p>(1) 支援チームを必要に応じて組織する</p> <p>(2) きめ細やかな教育相談体制を維持する</p> <p>(3) 各学年・分掌が人権教育推進の観点を踏まえ、企画・実行する</p> <p>(4) 中学生・保護者を始め、地域に対しても教育活動等を積極的に発信する</p> <p>(5) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める</p>	<p>(1) 管理職、担任及び教育相談担当者等からなる支援チームを組織し支援にあたる。</p> <p>(2) ①SC及びSSWによる生徒・保護者への教育相談を実施する。 ②就学対策委員会等を通して、支援が必要な生徒について情報共有するとともに、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p> <p>(3) 全ての教育活動において、いじめ防止等の人権教育推進の観点を踏まえた学校運営を行う。</p> <p>(4) ①スクールライフを正しく理解してもらうとともに、学校の魅力を発信するため、学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法を工夫し改善を行う。 ②現行の制服を現代にふさわしい多様性を意識した制服にモデルチェンジする。</p> <p>(5) 学校運営に関する意見、提言等を教職員と共有し、学校運営に取り入れる。</p>	<p>(1)(2) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答80%以上を維持する [肯定的回答90%]</p> <p>(3) 学校運営に係る研修等2回以上を維持する [サービスに関する研修1回、人権教育推進に関する研修2回を実施]</p> <p>(4) 中学生進路希望調査における本校志願倍率1.3倍以上を維持する [第2回希望調査 1.42倍]</p> <p>(5) 学校運営協議会から出された提言項目をできる限り学校運営に取り入れる [提言11項目のうち6項目を取り入れた]</p>	<p>(1)(2) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答89%であった。(○)</p> <p>(3) 学校運営に係る研修（サービスに関する研修1回、人権教育推進に関する研修2回）を計3回実施した。(○)</p> <p>(4) 中学生進路希望調査における本校志願倍率は第2回希望調査で1.18倍。(△) ・次年度に「学校案内」をリニューアルし、新制服を含めた本校の新たな魅力を中学生・保護者及び地域に発信したい。</p> <p>(5) 学校運営協議会から出された提言7項目のうち5項目を取り入れた。(○) ・提言を実行に移すため、次年度に新分掌を創設し、グローバル科の新たな特色づくりに着手する。</p>
<p>6 校務の効率化と働き方改革を推進する</p>	<p>(1) 校務の効率化を図り、教職員の時間外在校時間を削減する</p> <p>(2) 労働安全衛生管理体制を充実させる</p>	<p>(1) ICT等を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>(2) ①「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ②「全校一斉定時退庁日」を着実に実施する。</p>	<p>(1) 「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき10項目」のうち8項目を実施。 [新規]</p> <p>(2) ①時間外勤務80h/月以上の教職員を月平均5人以下にする。 [新規] ②全校一斉定時退庁日（月曜日）を月曜日とし、全校生徒のノークラブデーとするとともに、教職員は定時に退庁する。 [新規]</p>	<p>(1) 「10項目」を実践したが、時間外勤務80時間以上の教職員は昨年度とほぼ同程度であった。(△) ・業務の年間配置や分担体制の見直しに来年度さらに取り組む。</p> <p>(2) ①時間外勤務80h/月以上の教職員を月平均9.8人であった。(△) ・業務の年間配置や分担体制の見直しに来年度さらに取り組む。 ②全校一斉定時退庁日（月曜日）と全校生徒のノークラブデー（同曜日）は、概ね実施できた。(○)</p>